

ル・コルビュジェ「レマン湖畔の小さな家」原寸レプリカ制作 その1:施工図面の作成

八代研究室
01412115 中山 孝範

1. はじめに

2011～2013年度卒業制作で、学長プロジェクトの一環として調整池の畔にル・コルビュジェ設計の世界遺産17作品のひとつ「カップ・マルタンの休暇小屋」を制作した。本制作では学長プロジェクト第2弾として、スイスの「レマン湖畔の小さな家」(以下「小さな家」)の原寸レプリカを制作する(図1)。敷地は図2に示すとおり調整池をレマン湖と見立て、その畔とし、本稿では施工図面の作成を行う。

2. 「小さな家」について

「小さな家」はル・コルビュジェが1923年(38歳)に設計し、スイスのヴヴェイ郊外に両親のために1924年竣工した平屋建ての延床面積60㎡ほどの小住宅である。両親がそろってともに暮らしたのが1年ほどであったため、一般には「母の家」と呼ばれている。

「小さな家」には設計方針がふたつある。ひとつは太陽と湖が南にあり、東から西にアルプスが広がっていることである。また、湖とアルプスを一望できるよう、南面に幅11mの窓がある。ふたつは最小限の実用性を追求した「住むための機械」であることだ。適切な寸法と簡明な各機能には許される限り最小の面積としている。なお、敷地は設計完了後に設計方針に合う敷地を探した。

3. 本学におけるこれまでの研究について

本学では「小さな家」について既往の卒業研究と実測調査の記録がある。

まず、2013年度と2014年度の卒業制作ではル・コルビュジェ財団から入手した着工時使用されたと考えられる図面の精査を行い、2013年度では平面図、立面図、断面図が作成され、2014年度では1/20模型が制作された。

2016年3月と6月に「小さな家」の現地実測調査が2度にわたり敢行した。この調査によって1931

年に客室として増築した2階部分と擁壁の形状・寸法の実測スケッチが作成された。

2017年2月には、2013年度の図面作成の基となったル・コルビュジェ財団から入手した図面を日本語に翻訳し、新たに平面図が作成された。

4. 図面作成について

既往の研究と実測調査を踏まえ、実測図面を精査し下記の図面を13枚作成した(表1)。

表1 作成した図面リスト

No.	図面名称	No.	図面名称
1	配置図	8	西側・東側擁壁
2	1階平面図	9	各部部品A
3	2階平面図	10	各部部品B
4	屋根伏図	11	基礎配置図
5	断面図	12	A-A'・B-B'断面図
6	立面図	13	基礎詳細図
7	北側・南側擁壁	スケール(A3)1/100・1/50	

図3は表1で作成した図面を基に全体の概要をまとめた施工図面である。図中においてグレーの範囲は「その2:基礎の制作および完成予想図」にて実際に施工した箇所を示す。「小さな家」の敷地面積は352.79㎡、今回制作した基礎の面積は17.8m×4.5m=81.114㎡である。基礎の丸く突出した部分は暖炉の位置である。

オリジナルは敷地内において、庭は玄関付近と比べて350mm低くなっている。しかし、本制作では予算の都合により敷地内のレベルを均一として計画した。また、オリジナルでは5㎡ほどの地下室があるが制作は行わなかった。建物本体は確認申請の都合によりフレームまでの制作となる。

5. おわりに

本制作では過去の卒業研究と実測調査の情報を精査し、基礎の施工図面を作成した。

【謝辞】 図面作成および本制作にご協力いただいた藤原教授ならびに藤原研究室 君島海裕君、この場を借りて深く感謝いたします。



図1 「小さな家」外観写真

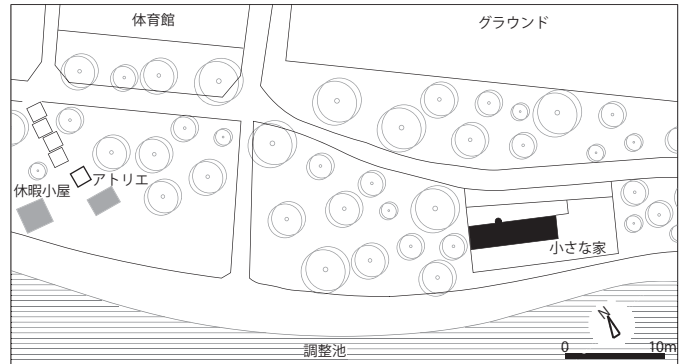


図2 「小さな家」敷地

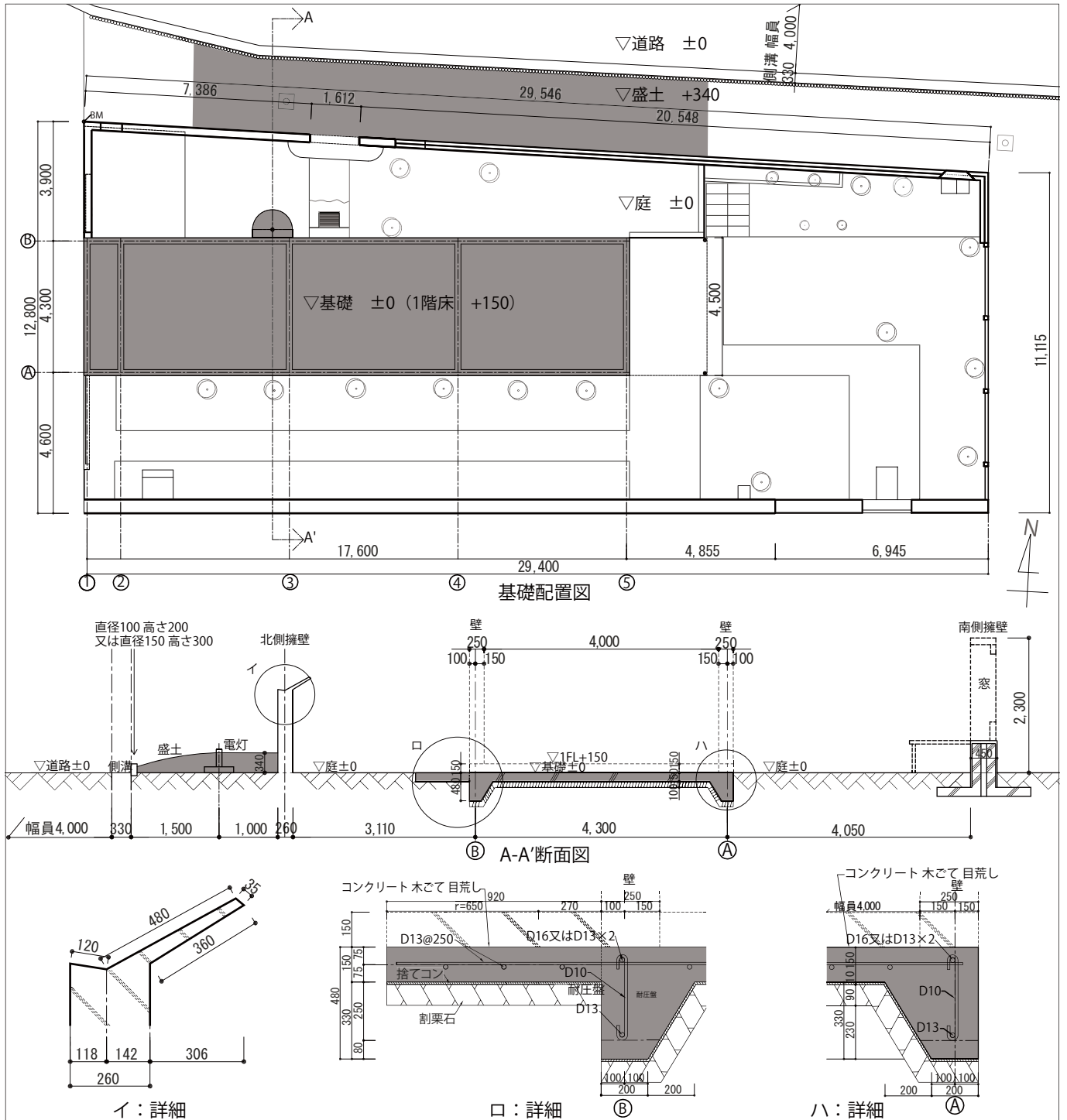


図3 作成した施工図 (グレーの範囲は施工した箇所)